

E A 2 1

**2023 年度
環境経営レポート**

**運用期間
2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日**

株式会社 片岡計測器サービス

発行：2024 年 6 月 28 日

【目次】

1. 環境経営方針
2. 会社概要
3. EA21運用組織図
4. 環境経営目標
5. 環境経営活動計画
6. 環境経営目標の達成状況
7. 今年度の評価、次年度の取組
8. 環境関連法規の順守状況
9. 代表者による全体評価と見直し
10. 環境活動の紹介

環境経営方針

I. 基本理念

株式会社 片岡計測器サービスは、環境計測機器の販売から据付、保守、技術サービスを主体に、顧客に対してより正確な役に立つサービスの提供を目標に日々活動しています。環境に係る企業として地球環境問題を当社の重要テーマと考え、事業活動における環境負荷への低減に努めるとともに、環境問題への意識を高め、環境配慮型製品の販売・サービスの提供に向けて社員一丸となって行動し環境保全に取り組みます。

II. 行動指針

1. 重点的な取組事項

取組事項として次のことに取り組み、継続的改善を推進します。

- ① 電力や燃料の削減に努め、発生する二酸化炭素の排出量の削減を目指します。
- ② 社内から出る廃棄物の分別の徹底及びリサイクルを推進します。
- ③ 節水に努め水資源の使用量を削減します。
- ④ 環境に配慮したサービスの提供をします。
- ⑤ 化学物質・産業廃棄物の管理・保管・処理を適正に実施します。
- ⑥ 環境に関わる啓蒙活動を推進します。
- ⑦ 地域とのかかわりを大切にし、環境保全活動に努めます。

2. 事業活動に関連する環境関連法規を遵守します。

3. この環境経営方針は全社員に周知し、必要に応じて研修会を開催し、その達成に努めます。

4. 環境への取り組みを、環境経営レポートとして公表します。

制定日	2010年	9月	11日
改定日	2011年	4月	26日
改定日	2018年	4月	26日

株式会社 片岡計測器サービス

代表取締役会長 川久保 賢隆

代表取締役社長 川久保 雄太

取組の対象組織・活動

◆組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 片岡計測器サービス

代表取締役会長 川久保 賢隆

代表取締役社長 川久保 雄太

(2) 所在地

〒753-0871 山口県山口市朝田541番地1

(3) 連絡先

 083-925-5252 083-923-7878 kms@kms-inc.jp <http://www.kms-inc.jp>

(4) 事業内容

環境計測機器、POSシステム関連機器及びOA機器の販売、据付、保守及び教育サービス

(5) 事業規模

売上高 67,000万円/2023年度

従業員数 29人

延べ床面積 378㎡

※2024年3月末現在

(6) 事業年度

4月～3月

(7) EA21委員会 環境管理責任者及び担当者氏名

役職・所属	氏名	役割
代表取締役社長	川久保 雄太	環境管理責任者
SE部TI課	吉村 悠	EA21委員会
創夢課	藤井 美波	
SE部TC課	初野 瑞季	
SE部TE課	兒島 拓海	

◆認証・登録の対象範囲

(1) 対象事業者名

株式会社 片岡計測器サービス

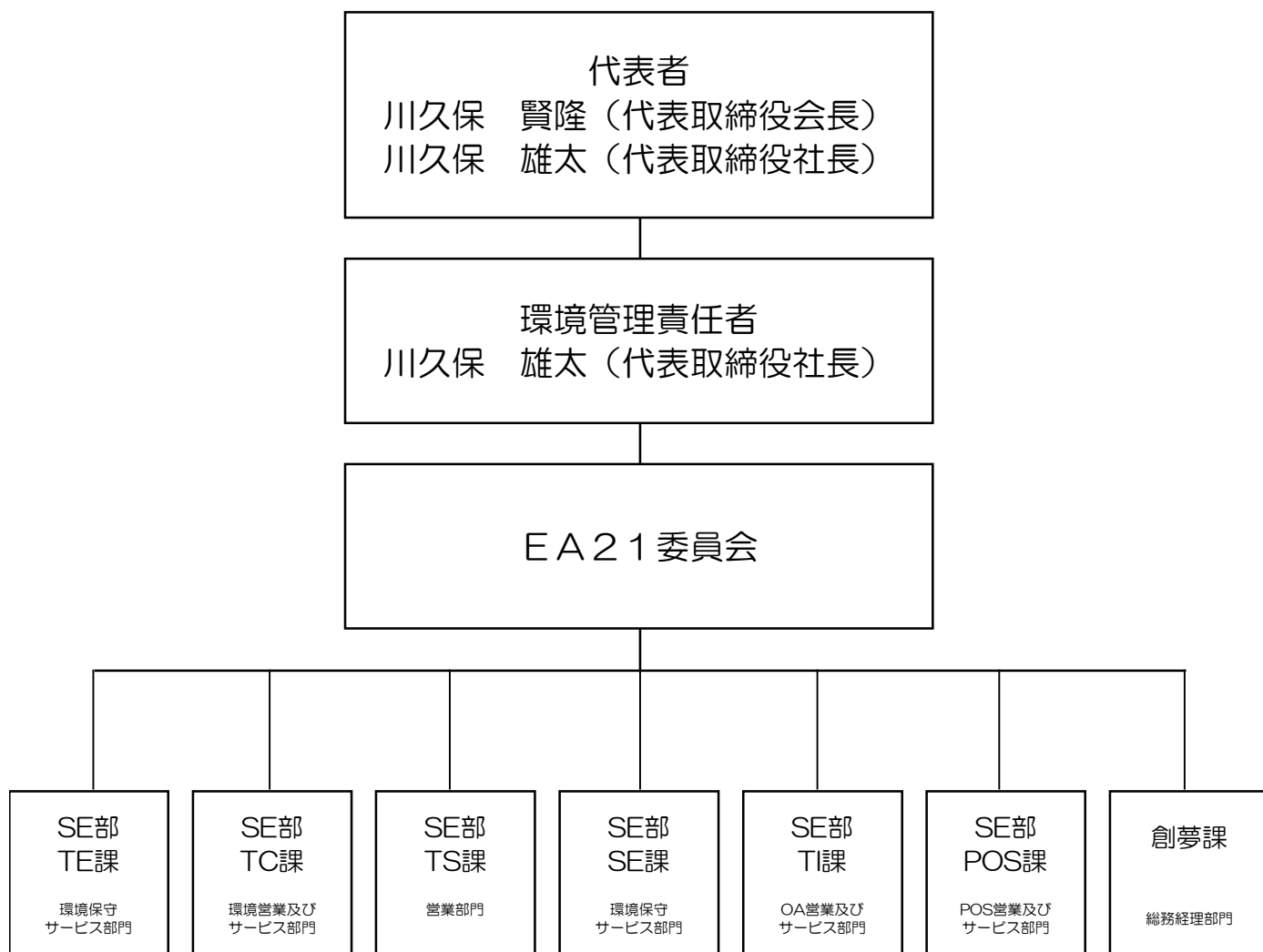
(2) 対象事業所

本社

(3) 対象活動

環境計測機器、POSシステム関連機器及びOA機器の販売、据付、保守及び教育サービス

EA21実施体制



活動内容

代表者	全体統括・環境方針の設定、環境への取組を実施するための資源の準備、全体の評価と見直しをする。
環境管理責任者	全体の把握。環境経営システムの構築・運用。
EA21委員会	社内への環境啓蒙活動の推進。 EA21文書及び記録類の作成・維持・管理。 環境負荷を集計し、環境管理責任者に報告する。 環境経営活動レポートを作成する。

2023年度環境経営目標

環境経営目標			単位	目標基準	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標	2026年度 目標	2027年度 目標
①	二酸化炭素排出量 ※1	総排出量	t-CO ²	103	100以下	98以下	96以下	94以下	92以下
				2022年度実績	2%削減	4%削減	6%削減	8%削減	10%削減
①-1	電気使用量	総使用量	kWh	24,198	23,714以下	23,230以下	22,746以下	22,262以下	21,778以下
				過去5年間平均 ※2	2%削減	4%削減	6%削減	8%削減	10%削減
①-2	灯油使用量	総使用量	ℓ	468	450以下	432以下	414以下	396以下	378以下
				2022年度実績	1斗削減	2斗削減	3斗削減	4斗削減	5斗削減
①-3	ガソリン・軽油使用量	1台あたり 使用量	ℓ/台	1,507	1,476以下	1,446以下	1,416以下	1,386以下	1,356以下
				2022年度実績	2%削減	4%削減	6%削減	8%削減	10%削減
①-4	都市ガス使用量	総使用量	m ³	40.4	39.9以下	39.5以下	39.1以下	38.7以下	38.3以下
				コロナ禍除く 過去5年間平均※2	1%削減	2%削減	3%削減	4%削減	5%削減
②	廃棄物排出量 ※3	紙削減機能 使用率の向上	%	38%	39%	40%	41%	42%	43%
				2022年度実績	1%向上	2%向上	3%向上	4%向上	5%向上
③	総排水量 (使用水量)	総排水量 (使用水量)	m ³	151.2	149.6以下	146.6以下	143.6以下	140.6以下	137.5以下
				過去5年間平均 ※2	1%削減	3%削減	5%削減	7%削減	9%削減
④	環境に配慮した サービスの提供 ※4	実施回数	回/年	12	12以上	12以上	12以上	12以上	12以上
				—	—	—	—	—	—
⑤	試薬室の清掃・点検	実施回数	回/年	12	12以上	12以上	12以上	12以上	12以上
				—	—	—	—	—	—
⑥	環境ビジネスに関する 啓蒙活動の実施	実施回数	回/年	3	3以上	3以上	3以上	3以上	3以上
				—	—	—	—	—	—
⑦	清掃活動の実施	実施回数	回/年	4	4以上	4以上	4以上	4以上	4以上
				—	—	—	—	—	—

【環境経営目標特記事項】

※1 二酸化炭素の排出係数は目標設定時の2022年度中国電力株式会社の調整後排出係数 0.545kg-CO₂/kWhを用いた。

※2 過去5年間平均とは目標設定時以前の「2018年度～2022年度」、コロナ禍除く過去5年間とは「2015年度～2019年度」のことを指す。

※3 廃棄物排出量削減目標の「紙削減機能使用率の向上」とは、全印刷物に対し両面印刷・2in1・4in1を使用した割合。

※4 環境に配慮したサービスとは、業務内でのエコ活動の目標の設定及び全体への喚起。

※5 PRTR対象化学物質の使用量は少ないので化学物質使用量の削減目標は掲げず、適正管理する。

備考：（特別管理）産業廃棄物は、顧客からの引合内容により排出量が大きく変わるため、自社努力で削減できない。

従って、（特別管理）産業廃棄物に関する削減目標は掲げず、企業活動内で自社努力によって削減が見込める紙の使用量に関する目標を設定する。

2023年度環境経営活動計画

取組目標	活動
①二酸化炭素排出量削減	
電気使用量削減	1 エアコンの設定温度（室温 夏25℃程度、冬 22℃程度）
	2 昼休みの消灯（昼食スペースは除く）
	3 空調機器のフィルターの定期清掃
	4 残業時の不要な照明の消灯
	5 長時間席を離れる時、パソコンの電源OFF
	6 不要な電力消費の抑制（待機電力の削減）
灯油使用量削減	1 灯油ストーブの適正利用
ガソリン・軽油使用量削減	1 エコドライブの励行（急発進・急加速をしない アイドリングストップ 定速走行の実施）
	1-1 ドライブレコーダーを使用して、エコドライブの意識を高める
	1-2 エコドライブ選手権の実施
	2 省エネ車両の購入
都市ガス使用量削減	1 適切な火力調整の励行
	2 ガスストーブの適正利用
②廃棄物排出量削減	
紙使用量の削減	1 両面印刷の積極利用
	2 裏紙の積極利用
	3 社内回覧文書は白黒両面印刷で行う
廃棄物分別の徹底・リサイクルの推進	1 缶・ビン・ペットボトルの分別の徹底
	2 可燃ごみ・不燃ごみの分別の徹底
	3 客先でのごみの分別回収の徹底
③排水量削減	
水資源の使用量の削減	1 水を流しっぱなしにしない
	2 配管漏れの確認
④環境に配慮したサービスの提供	
環境に配慮したサービスの提供	1 現場でのごみの分別
	2 現場での不要な照明の消灯
⑤試薬室の清掃・点検	
試薬室の清掃・点検	1 試薬室の清掃点検（担当者を決め、毎月実施）
	2 薬品の適正管理（施錠・管理状態）
⑥環境ビジネスに関わる啓蒙活動の推進	
環境ビジネスに関わる啓蒙活動の実施	1 学生インターンシップ及び留学生の受け入れ
	2 地域の学生に対する環境に関わる講演会の実施
	3 環境問題に関わる展示会への積極参加
⑦清掃活動の実施	
会社周辺の清掃	1 会社周辺の清掃
	2 地域及び関連企業の清掃活動への参加

6 環境経営目標の達成状況

環境経営目標			単位	2023年度 目標	2023年度 実績	前年度 実績	目標比 ※	前年度比 ※	達成状況	次年度目標
①	二酸化炭素排出量	総排出量	t-CO ²	100以下	96.24	103.64	-3.76%	-7.14%	◎	98以下
①-1	電気使用量	総使用量	kWh	23,714以下	24,972	26,879	+5.30%	-7.09%	△	23,230以下
①-2	灯油使用量	総使用量	ℓ	450以下	198	468	-56.00%	-57.69%	◎	432以下
①-3	ガソリン・軽油使用量	1台あたり 使用量	ℓ/台	1,476以下	1,410	1,507	-4.47%	-6.44%	◎	1,446以下
①-4	都市ガス使用量	総使用量	m ³	39.9以下	33.0	53.0	-17.29%	-37.74%	◎	39.5以下
②	廃棄物排出量	紙削減機能 使用率の向上	%	39%	40%	38%	+1%	+2%	◎	40%
③	総排水量 (使用水量)	総排水量 (使用水量)	m ³	149.6以下	185	234	+23.66%	-20.94%	△	146.6以下
④	環境に配慮した サービスの提供	実施回数	回/年	12以上	12	12	±0回	±0回	◎	12以上
⑤	試薬室の清掃・点検	実施回数	回/年	12以上	12	12	±0回	±0回	◎	12以上
⑥	環境ビジネスに関する 啓蒙活動の実施	実施回数	回/年	3以上	0	0	-3回	±0回	△	3以上
⑦	清掃活動の実施	実施回数	回/年	4以上	2	2	-2回	±0回	△	4以上

【達成状況について】

	本年度目標達成	前年度より維持もしくは改善
◎	○	○
○	○	×
△	×	○
×	×	×

備考：対象となる期間 2023年4月1日～2024年3月31日

※目標比/前年度比は削減率、廃棄物排出量は向上率、実施回数目標については過不足回数とする。

7 今年度の評価、次年度の取組

項目		今年度の評価	次年度の取組
①	二酸化炭素排出量削減	電気使用量のみ削減目標を達成できなかったが、灯油・ガソリン・都市ガスの目標を達成し、二酸化炭素排出量としては達成した。暖冬、感染症対策の緩和が要因と考えられる。	新しい取り組み「エコポイント制度」を開始し、エコドライブだけでなくライトダウンやノーマイカーデーなど他のエコ活動も積極的に参加してもらうよう意識付けを行う。
①-1	電気使用量削減	暖冬の影響で灯油ストーブの使用頻度が減ったが、その代わりにエアコンの使用が多くなったため、考えていた以上に削減することが出来なかった。	電気料金の値上がりを考慮して、灯油ストーブとエアコンの効率的な活用方法を考える。 また、2024年度開始の「エコポイント制度」で、早めのライトダウンを呼びかけ、電気使用量の削減に努める。
①-2	灯油使用量削減	暖冬の影響で、灯油ストーブの使用頻度が少なかった。	電気料金の値上がりを考慮して、灯油ストーブとエアコンの効率的な活用方法を考える。
①-3	ガソリン・軽油使用量削減	感染症対策が緩和され、車両一台に二人以上の同乗が可能になったため、全体の走行距離が25,000kmほど減少した。そのため、燃料使用量も2,400Lほど減少している。それに加えてエコドライブ選手権の取り組みもあり、個人燃費が向上していることが要因と考えられる。	次年度はエコドライブ選手権を夏季も開催し、より意識、燃費向上に向けて活動を行う。
①-4	都市ガス使用量削減	暖冬の影響で、ガスストーブの使用頻度が少なかった。	都市ガスに関してはほとんどがガスストーブによるものなので、引き続き無理のない範囲で削減に取り組む。
②	廃棄物排出量削減	目標の大幅達成とはならなかったが、順調に達成できた。 また、印刷前の確認によるミスプリント削減、裏紙の活用など目標数値に響かない部分でも活動ができた。	目標達成が年々厳しくなっているため、新しい取り組み「エコポイント制度」を開始し、エコドライブだけでなく他のエコ活動も行ってもらよう意識付けを行う。 ペーパレスなどのIT化やDXを推進する取り組みも視野に入れたい。
③	総排水量（使用水量）削減	削減のため節水や使用方法の見直しを行った。前年度と比べると大幅な削減ができているが、目標にはまだ遠い。	使用量の多い部分での節水ポスター掲示や、声掛けを行い削減できるよう活動を行う。
④	環境に配慮したサービスの提供	各現場での清掃活動、ごみの分別等を行い、目標を達成することができた。	次年度も引き続き実施する。
⑤	試薬室の清掃・点検	計画通り実施できた。	次年度も引き続き試薬室内の維持・改善に向けて取り組む。
⑥	環境ビジネスに関する啓蒙活動の実施	インターンシップ、出張授業などの機会に恵まれず未達成。	インターンシップなどの機会も徐々に戻っていくことが考えられるので、積極的に参加したい。
⑦	清掃活動の実施	取引先の清掃作業が天候不順の影響で中止になり、実施回数が少なかったため未達成。会社周辺の清掃は例年通り実施。	新しい取り組み「エコポイント制度」を開始し、エコドライブだけでなく他のエコ活動も行ってもらよう意識付けを行う。

8 環境関連法規の順守状況

◆環境関連法規への違反、訴訟などの有無

○法的義務を受ける主な環境関連法規制は次のとおりである。

- ・ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- ・ 毒物及び劇物取締法
- ・ 消防法
- ・ 下水道法
- ・ 山口県循環型社会形成推進条例

◎環境関連法規等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規への違反はありませんでした。
なお、過去3年間に関係当局より違反等の指摘はありませんでした。
また、訴訟もありませんでした。

9 代表者による全体評価と見直し

今年度は、5月8日より新型コロナウイルス感染症の感染症上の位置付けが2類から5類となり自粛要請・行動制限が撤廃され、社会経済活動の正常化が進みました。そうした中で環境活動においても、今年度より新たに2027年度までの環境経営目標を策定し、新しい活動サイクルがスタートしました。

新たな環境経営目標においては、これまでの活動実績を継続しつつコロナ禍での実績を加味し、例えば、換気をしながらのエアコン使用等コロナ禍を経た新しいニューノーマルな日常を取り込んだ目標としました。また、これまで維持目標としていた都市ガス使用量や総排水量に関しても、実績を考慮して再び削減目標を設定し、より現実に即した実践的な目標を策定しました。

新しい目標に基づく1年目の活動結果としては、11項目中7項目において目標達成ができました。電気使用量こそ暖冬の影響によりエアコンの使用が増え、前年度より減少したものの目標未達となりましたが、灯油使用量、都市ガス使用量は大幅に削減でき、ガソリン・軽油使用量も感染症対策の緩和により効率的な車両使用、エコドライブ選手権等による個々のエコドライブ意識の向上により前年度より燃費向上すると同時に使用量の削減もでき目標達成となりました。その結果、二酸化炭素の排出量は、前年度より削減でき目標も達成となりました。総排水量に関しては、目標未達ながら前年度より20%以上の削減ができました。また、廃棄物排出量は、紙削減機能使用率の向上により順調に改善ができ、環境に配慮したサービスの提供、試薬室の清掃・点検は、確実に実施して目標を達成することができました。環境ビジネスに関する啓蒙活動の実施は、インターンシップ等まだまだ機会がありませんでした。また、清掃活動の実施は、天候不順で取引先の清掃活動は中止となりましたが、会社周辺の清掃は例年通り実施できました。

全体としては、目標達成率は63.6%でしたが、全ての項目で前年度より維持もしくは改善をすることができました。

来年度に向けては、新しい取り組みとしてこれまで実施してきたエコドライブ選手権だけでなく、ライトダウンやノーマイカーデー、清掃活動や紙使用量の削減への参加をポイント制で総合的に評価するエコポイント制度を開始し、より広く環境活動に関する意識を高めると同時にコロナ禍においてできなかった積極的なアクションを行っていきたいと思います。

10 環境活動の紹介

【地域貢献活動】

○グリーンカーテンの設置

5月にグリーンカーテンを設置しました。



○地域清掃活動

毎年春・秋に会社周辺の清掃活動を行っています。



【その他取組】

○山口県CO₂削減県民運動「ぶちエコやまぐち」宣言事業所登録を行いました。

